常磐文藝

新年

飯村　閑舟

萬人の、年を更へつる
そは〳〵の、今日の新玉
嬉しくも、早檐端には
松飾を、施しけり
初かへり、朝湯に浸り
雑煮にて、屠蘇を祝ふて
祝杯を、擧げつゝ外を
瞠めなば、そこには晴衣
裝ひつゝ男子は凧を
嬉々として、飛揚なしつゝ
女子は、優しの聲で
羽子擡きや、毬つきにぞ
いそしみて。何處とはなしに
心より、寵りし喜び
滿面に、湛ねるこそ
目出度の、鶴姿は池の
萬内を、習ふて一聲
放ち行く、餌籠に適ふ
池水に、放恣を誇る
鯉の、悠閑の
昇りゆし、旭　放日
背に負ひて、日向溫惠を
蒙りて、人の目を引く
愛らしの、芽榮や嬉し
新年の、廻ひまつりし
今日の替　（完）

炭（高月會）

炭賣りの續いて通る冬の町　松童
炭焚くや自警の群の赤き顏　雞山
徒らに炭火に見入る女かな　同
炭火煙々空想談の一座哉　同

カテイラン

家庭欄新設に就て

本紙は常に家庭に親しみの多い新聞であるべきが編輯上の方針であります爲めに本年からは『カテイラン』を新設し家庭に知らしむべき事柄や主婦に必要な事項を毎日掲載する事としました、どうぞ御愛讀を願ひます。

▼毛糸類の洗濯法　毛糸や編物の洗ひ方はよほど注意しないと形がくづれますから洗ふには揉んだり捺つたりしないで、兩手で輕く押へるやうにして洗ふのですすゝぐ時にもやはりヌルマ湯の中でたさへる樣にして幾度でも湯を取りかへてすゝぎます、最後にサクサンの水に通して板の上に取り出し輕く兩手でおさへて水氣を切り、風通しのよいところで蔭干にするのです。が決して竿にかけてはいけません、まづ敷ゴザのやうなものゝ上にチャンと形をつけて疊みつけ、ゴザのまゝ板などの上へのせて乾かせるのです、かうすれば形もくづれず、糸もいたみません

耽讀の破れや深夜の炭せゝり　同
炭を割る新妻の手を憐れめり　雪村
炭斗に題す吾心雪の如し　同
炭さして嘘廣賬ゝ俳話かな　閑月
納屋に積む炭一ぱいや村長者　耕影
不參多く又流會の炭火かな　牛玉
落飾の涙炭火　灰を削る　同
前垂の下や其の日のはかり炭　同
熾し炭俳優部屋の此處彼處　牛城

看護婦派出の求めに應ず
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

謹賀新年
平停車場前大通り
土木建築請負　堀江工業株式會社
電話五一九番
石城郡四倉町

萬年瓦製造販賣　江口忠一
電話三八番

謹賀新年
震災後の此際參上拜賀を差控へ乍
略儀本廣告を以て年賀に代へ申候
門傳清吾
平町掻槌小路
自宅に歸省中

謹賀新年
福島縣石城郡平町田町
磐城病院
電話一一四番
市原卯太郎
市原陸郎
福島繁
顧問　醫學博士鈴木清藏
内科毎日曜診察

株式賣買中値

左記の値段は本日の標準値に付御用の節は御問合願候

銘格	拂込	時價
	圓	圓
磐城銀行	五〇〇	五七〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐越銀行	一二五	一〇五
磐城實銀	三〇〇	三〇〇
田村實銀	一二五	一二五
四倉銀行	一二五	一二五
農工銀行	二〇〇	二六〇
同　新	一五〇	二〇〇
日七銀行	五〇〇	五三〇
同　新	一二五	一四五
七七銀新	一二五	九五
郡山電氣	五〇〇	三七五
同　新	二五〇	一七五
只見川電	一二五	六〇
植田水電	一二五	一三五
好間水電	一二五	一三五
磐城建物	一二五	五五
磐城製菓	二〇〇	六五
平信託	五〇〇	四五〇
磐城勸業	一二五	一三五
磐城物産	三〇〇	二五〇
平製水	二〇〇	二二〇
好間軌道	五〇〇	三五〇
小名商事	一二五	……
小名水産	一二五	……
小田炭礦	二二五	五五
磐城炭礦	五〇〇	三七五
同　新	二二五	一五〇
磐城セメント	五〇〇	九一〇
同　新	一七五	三七〇

賣買誠實懇切機敏に御取扱申候間多少に不拘御用命願候

平町田町電話三二二番
丸登株式店
川添房二郎

常磐毎日新聞

一月七日夕刊

定價
一部金貳錢　月極二限り一ヶ月卅錢

廣告料
五號十三字詰一行五十錢

休刊日
毎日曜日　大祭日の翌日

印刷所
福島縣石城郡平町田町十六番地
磐城新聞社印刷部

發行兼編輯人印刷人
川崎文治

發行所
福島縣石城郡平町字長橋町卅五番地
常磐毎日新聞社

年頭雜感（一）

日本の社會は現在非常に破亂を起してゐる、過渡期であると世の批評家は云つてゐる、而し私からすれば全然其正反對である、何故なれば現在の日本は決して彼等が云ふが如き破亂はないからである、而しかう私が云ふならば世の所謂思想家みたいな人間は云ふかも知れない、現在の日本ぐらゐ破亂が起きてゐて、然かも其の根底のある破亂を起しつゝあるにもかゝはらずさうした意見は色目鏡を通しての意見であると。

私は若しもかうした人間が居つたとすれば吾々同胞のために悲しまざるを得ない何故なれば彼等は事實に於て社會を構成してゐる人間と云ふものに對する概念が餘りに不鮮明であるからである、彼等は只單に社會現象のみを見て一或は見ないで一其れが善であるとか惡であるとか簡單に片附けやうとしてゐる、其れは抑々誤つた行爲であり又意志であるべきだ、社會現象を社會現象として見るのも惡くはあるまい、然し其原因をなしてゐる人間と云ふものはと云ふより自分と云ふものの之れを哲學的に云ふならば自我とは果して如何なるものか、正体であるか化物であるか、

而して現在の吾々が存續して來たまで即ち其れの歴史的考察も一法である、或は又た地理的に見るのも一法である、其何れに立場を決定するにせよ、吾々は少なくとも其境地に根據を置いて論じなければならない其意味からして私は日本に對して偉大なる期待を持つと同時にさうした徒輩を攻めたい。

（續）

平町外六ヶ村聯合農産物品評會 褒賞授與式

けふ平商業學校に於て 出品點數は六百七十二點

平町外内郷、飯野、夏井、神谷、平窪、好間の六ヶ村聯合農産物品評會は五日午前九時より平商業學校にて開會出品點數は六百七十二點に達し大垣内技師其他當日直ちに審査の結果一等十四點、二等卅二點、三等五十點、四等八十二點の入賞者を見た而して本日午後二時から褒賞授與式を擧行し佐瀬郡農會長戌申詔書を捧讀後大垣内技師の審査申告あつて褒賞を授與し佐瀬郡農會長の式辭、品評會長山崎與三郎氏聯合町村長總代伊坂平町長其他の祝辭あつて受賞者總代は答辭を述べ午後四時閉式後住吉屋本店にて懇親會を催した因に山崎品評會長の祝辭左の如くである

大正十三年一月七日平町外六ヶ村農會聯合品評會褒賞授與の式を擧行せらる、惟ふに産業の發達生産の増殖を圖るに時代の趨勢に鑑み最必要なるのみならず、農家經營の要諦たり關係町村相聯合して品評會を開き其發展を促さんとするは誠に機宜に適したるの施設と謂ふべし、今出品物を見るに其數六百七十二點の多きを算し就中蔬菜類の如き其成績優良なるものあるは當業者並に關係各位の努力助勢の致す處たるを信ず近時著しく生活の向上を來し且つ人口の増加に伴ひ之等需用益々盛ならんとす當業者諸賢能く審査の成績に鑑み品種の選擇栽培方法の改良品質の改善と増殖とに力を致し益々斯業の進展と地方福祉の増進とを期せられんことを一言述べて祝辭とす

神職豫算附議 石城郡神職會は七日午前十時から郡衙内にて總會を開き本年度豫算を附議したが出者席廿四名

御慶事に因む

舊歳末賣出の奉祝模様は？

半襟や帛紗に意匠を凝らす

▽……三井呉服店主の談

攝政殿下の御慶事は舊歳末に當るので平町各呉服店では舊歳末賣出しを好機とし奉祝の心をこめた衣裳圖案のものを

記念の品　として賣出すべく頭をひねつて居るが萬事は質素にといふ上意を体し裾模様等の絢爛なものは現はれぬかはり、半襟やフクサや風呂敷は夫々御慶事の奉祝圖案を現したものを集めやうとして居る、三井呉服店主中西庫次郎氏の談は御慶事半襟の模様は地色が古氏紫、猩々緋

復興色で　名付けて居る濃緑、圖案は鳳に桐竹をあしらつた友禪もの、雲の間から桐の葉くづしを見せたり、雲の間に若竹を染め出して桐の花をあしらつたり、或は青磁石の地色に鳳を輕い刺繍で現はして雲を銀糸のバラ縫ひで見せるといふやうに上品な

有職風の　クラシックな感じをさそうやうにつとめたものばかりであるがフクサの模様も同様で生地は錦紗と小濱縮緬を選び値段は二圓から五圓どまり風呂敷はメリンス一圓廿錢前後で賣り出されるとの事である

三丈餘の絶壁から忍術を眞似て飛降る

▽……活動寫眞の悪影響か

▽……十歳の小兒生命危篤

十七八日も天氣が打ちつゞいたので空氣がスッカリかはき切つて居る上に晝夜の温度が非常にちがふので感冒流行のたそれがあるから充分注意せねばならぬ』

不平受付

◇……投書歡迎……◇

入學が出來ぬ　私共に尋常六年半途にして來た小供があるので早速中校へ入學の手續きをしたのですが學校側では校舍がせまいとか教員が不足だとか云つて入學を許可して呉れません、どうしたものでせう（平生）

▼伊坂町長の答……父兄が平町に寄留せず兒童だけが寄留したのでは小學校へ轉校不能です、若し是れを許すと續々轉校者が増加して兒童を收容しきれぬ事になります、但し震災罹災者で扶養者がなくなつた爲め單身平町に寄留した兒童は別です

石城郡湯本町入山川平坑々夫岡本金重の長男敏雄（一○）は去る五日午後二時頃裏山なる絶壁から忍術の真似をして三丈餘の崖に飛び降り頭部中央に裂傷を負へ左肩部を挫折し應急手當を施したが生命危篤

寒の入り

昨日から　小名浜測候所の談

昨日から寒の入りで夜は寒行念佛の鐘の音が凍つた空に響き一層寒さの増した感あるが小名濱測候所員は語る『今年はどうした事か低氣壓がズンく消えてしまひ天氣のよくなる癖がついて居るが今朝のまき雲の模様から見ても今度はどうやら悪い方に向ひさうである、

性 眞面目な 題問慾

（其一）

産と陣痛

胎兒を産み落す時に母体は可なりの勞若を嘗める、此の生む若しみを陣痛と稱する、月満ち時至つて陣痛なるものが始まる。それが適當の時に、自然に始まるのであつて、意思を以てどうすることも出來ぬ。今年は都合が悪いから來年まで我慣しやうといふ譯には行かない、先づ子宮壁が收縮し之に腹壓も加はつて子宮の内容はどうしても押し出されずには居られなくなる。今まではのびることのみを考へて居た子宮の筋肉纖維が、反對に縮まんことを努める。此の壓力によつて先づ羊水が羊膜に包まれたまゝで子宮口を押し開らく、遂に羊膜は堪え切れなくなつて破裂するときに一部の羊水を迸出する。その流れに乘じて胎兒の頭が産道に押し込まれるそれからあとは陣痛の壓力で除ろに産道を押し進められてゆく、要するに分娩は器械的の仕事であり、た産は激しい筋肉勞働で此勞働を鞭達するため疼痛を伴ふ

常磐片々

流産内閣で名を賣つた清浦子が今度は難産で惱んだ爲め子宮病内閣の異名を取る

○

忍術を眞似て三丈の絶崖から飛び降りた子供がある

○

活動寫眞の感化だ

○

天氣續きで空氣乾燥、た蔭で感冒流行

○

測候所の觀測では雨か雪か一寸見當のつかない天候の由

○

天候だから我慢するが馬車馬だつたら大變

○

大根と人參でアーチを作つた農産品評會、今日褒賞授與式

○

平町近來の傑作だが平商庭球コートに下駄の跡散亂

郷社に昇格

好間熊野神社 社頭に奉告祭

石城郡好間村々社熊野神社は舊臘廿四日附郷社に昇格したので九日午前十時から是れが奉告祭を執行の筈

幹部改選

長橋青年 顧問に小野氏

平町長橋青年分團長小野和七氏は此程滿期退團したが十年以上同團役員として功勞あつた爲め顧問に推薦され更らに幹部改選の結果左記の如く決定した

（團長）遠藤林藏（副團長）川崎文治（會計）關内信次郎（幹事）猪狩富雄、遠藤喜藏、桑原仙松（常議員）小野義一、小菅榮之助、岡部達雄、松本嘉七、今宮政衛

志願兵昇任 石城郡内一年志願兵にして此程位記を贈られた者は左記の如くである

（歩兵少尉）飯野村村田留司、同小野勇、高久村大谷武雄、平町小菅盛也、江名町吉田長司、

（輜重兵少尉）豊間村遠藤衡平（三等主計）三阪村吾妻六郎

福島炭礦の第二坑廢止

出炭甚だ少く

石城郡赤井村福島炭礦第二坑は舊臘卅一日を以つて廢坑し其附近に新坑を開鑿した結果着炭した因に第六坑及び第三坑山神坑は意の如く出炭しない模様である

平町人事

▲出生

△八幡小路　永島留長男利重

△二丁目　關内正一二女滿壽子

△鐵道官舍　大高重器六女壽

△材木町　遠藤源治四女幸子

△五丁目　日下部喜藏二男

□募集　文藝其他一般投稿を歡迎します

光男

▲死亡

△長橋町　渡邊トキ（二〇）